

なか

No.141

発行日 平成28年10月11日
 発行 那珂市
 編集 秘書広報課広報グループ
 〒311-0192
 茨城県那珂市福田1819-5
 E-mail hisho-k@city.naka.lg.jp
 U R L <http://www.city.naka.lg.jp>



目次 Contents

ふるさとづくり寄付で那珂市を応援しよう！	… 2
夏に輝いた皆さんを紹介します	… 4
水鳥 ²⁵	… 6
平成28年第3回市議会定例会	… 9
なかひまわりフェスティバル2016	… 10
那珂ふるさと大使通信	… 11
わがまちの環境を考える	… 12
那珂市内放射線量測定状況	… 19
まちの話題	… 20
Information	… 22
さわやかさん ほか	… 26

写真：月見の会にて



水鳥

25

那珂市の教育遺産群（後編）
「私塾と寺子屋」

和算普及の祖となる石川貫道

水戸藩の弘道館は「文武両道、学問事業その効を殊にせず」を教育の基本に置いていました。さらに医学や天文学なども加えた総合大学の性格を持っていました。後編では、和算の普及と武道方面についてまとめました。武道については、武士は剣術・剣道・砲術でしたが、水戸城下周辺の村々には無比流棒術や為我流柔術が盛んに広がりました。その武道には多くの免許皆伝を受けた者が出ています。その主な武術とその師匠を紹介してみます。

また、これまでの市史編さん関係本に漏れていました、後台村の寺子屋師匠「鈴木長左衛門」についても補っておきます。このたび水戸市の田口誠二氏からご教示をいただいたものです。

水戸藩の和算は笠原水道を設計した平賀保秀に始まり、やがて関孝和の「関流」が藩内に広く流行しました。農村部では額田村の原敬敦、福田村の高橋重輔らが和算家として知られています。高橋の弟子に南酒出村に和算塾を開いた石川清助貫道がいます。増井村（常陸太田市）の本多家から安政年間に南酒出村石川家の養子となりました。若いときから足が不自由で農作業も困難であったため、和算にかける情熱は盛んなものでありました。

門人は地元南酒出村の51人をはじめ、横堀村3人・額田村23人・菅谷村10人・門部村9人・北酒出村7人、鴻巣村6人など大勢に上り、さらに大戸村（茨城町）には12人、また久慈、多賀、鹿島の各郡へは出張教授も行っています。門人総勢は200人を超え、その盛況ぶりは連日30人を超えたといわれています。

明治6年（1873）には北酒出・南酒出両村設置の深耕小学校で数学の教員となります。門人の高弟には南酒出村の桐原好道・片岡亀吉・桐原舎道・袴塚巳之松・袴塚忠之助、菅谷村の平野又衛門、鴻巣

村の津田盛遥らがいます。やがて門人ら一同が相談し、南酒出蒼龍寺境内石川家墓地内に「関流八傳故石川貫道先生墓」を建てています。また、前述した南酒出村の門人桐原好道・片岡亀吉・桐原舎道ら3人もそれぞれに私塾を開き、その門人たちが師匠への謝恩の墓碑を建立しています。南酒出地域においていかに算学が盛んであったかを示しています。

なお、和算仲間には、研究した問題と解答を「額」にして神仏に奉納し感謝する習慣がありました。明治14年（1881）、石川貫道を願主として高弟26人が静神社に算額を奉納しています。



平野又左衛門重義

菅谷寄居の又左衛門は為我流柔術の免許皆伝であり、「その術神のごとし」と伝えられ、その門人は幕末から明治期にかけて1000人を超えています。那珂市域には菅谷村の91人、鴻巣村の39人、門部村の35人をはじめおよそ260人へのぼりました。その内、指南免許を得て道場持ちとなり、明治期に入って活躍した者に、門部村の鈴木藤兵衛重則・勝山治介信道・楠見要之允、飯田村の富田兵左衛門知意、菅谷村の砂押兵次郎重春・飛田文五郎源重、鴻巣村の沢幡忠蔵好洋らがいます。又左衛門82歳の晩年にあたる明治15年（1882）、門人らが相談して寿蔵碑「報厥徳」（厥の徳に報いる）を寄居共同墓地内に建立しています。



鈴木長左衛門

鈴木長左衛門、諱は惇義、後に長左衛門と改めます。寛政8年(1796)5月に誕生、天保4年(1833)から同7年まで後台村の庄屋を務め、明治元年(1868)11月、73歳で病歿し村内の鈴木氏先塋の墓に埋葬されました。

長左衛門は幼少より読書を好み、青柳村(水戸市)鹿島香取神社の神官小川伊織(子息は修理)に就いて学びました。常に読書に励み、性格は実直、物欲は少ない方でした。無駄な議論や遊びごとといえどもよく相手となりました。能弁ではありませんが、粘り強く諄々(じゅんじゅん)と説き続け、その教えはしみじみと心にしみたものでした。その門人は、子息の義重や世話人を含めて118人にのぼります。

明治4年(1871)11月、門人たちは長子の義重と相談して謝恩の碑を建てました。撰文は弘道館で教授した後、木倉小学校にも勤務した塙正脩です。門人のほとんどは周辺の人々ですが、その中に女性も入っています。

当時の学習意欲を窺うことができますので、台石に刻銘された門人名をあげておきます。

鈴木次郎左衛門敏信、井上四良平、鈴木源衛門、海野傳吾兵エ、三田寺彦十、塩埜弥吾良、小森常エ

門、石川伊之太良、鴨志田次良平、海埜長次良、會沢与志兵エ、同太三良、増子平蔵、井上元エ門、石川庄兵エ、大和田長四良、廣瀬左吾良、井上藤次兵エ、後藤熊吉、寺門龜吉、小嵐新吾、山田八良エ門、石川吾良兵エ、三田寺久エ門、鈴木重エ門、海埜長兵エ、井上久三良、鴨志田四良エ門、同口市エ門、鈴木平吾良、三田寺清介、井上弥八、同初太良、同長七、高野太兵エ、鴨志田千代吉、同清兵エ、井上元十、同子之吉、鈴木治惣治、井上宗七、鴨志田栄十、三田寺彌之介、井上庄蔵、同与吾平、小林新エ門、井上与左エ門、松田貞介、山田与惣エ門、同八五良、松田卯之松、軍司幸七、磯崎惣吾良、鴨志田甚エ門、同宗吾良、同長吾良、石川秀松、大曾根清七、塩野新十良、同勘三良、塩野口之口、會沢卯之吉、鈴木兼太良、鴨志田才太良、同右馬治良、海野安エ門、井上新四良、鴨志田平四良、井上治良、塩埜春吉、廣瀬佐一エ門、井上未治良、同熊治良、寺門惣治良、海埜源之介、鈴木惣七良、三田寺房之介、同勘之介、綿引三良エ門、同初太良、井上寅吉、同捨吉、鴨志田口治良、廣瀬藤三良、同巳之吉、鴨志田留吉、鈴木真治良、同熊吉、鴨志田仙治良、井上三之介、鈴木泉二良、鈴木秀吉、同口治良、廣

瀬おいき、鈴木おつき、海埜おとく、鈴木おひて、三田寺おそよ、鈴木おあき、會沢おやを、鈴木おすて、會沢おあき、鈴木おいし、三田寺およし、鴨志田おみよ、鈴木おくら、同おわくり、同おゑい、鴨志田おみき、海埜傳之允、鴨志田茂エ門、廣瀬藤七、三田寺四良介、山田七良、會沢郡之允、塩埜弥一兵エ、井上藤兵エ、鈴木惣兵エ敏行

このほか、寺子屋を開いた者に、福田村春日神社の神官今瀬清珉、後台村鹿島三島神社の神官小坪雄之進、額田村の鈴木一之允、同村鱗勝院の慧空和尚らがいます。家塾を開いた者に、南酒出村の修験で般若院を開いた本多清剣や同村の沢田剛蔵、額田村の助川千之允、菅谷村の根本静雄らが出ています。

また、文芸・芸能仲間としては額田の中嶋五峰らを中心とする俳諧、および絵画・長唄仲間もありました。



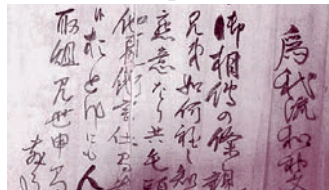
会沢伊三郎主膳

会沢伊三郎は後台新地の人、諱は主膳、壮年から棒術に関心を深め、佐野村(ひたちなか市)の沼田伊兵衛に就いて無比流棒術を学ぶこと数年、日々修行を怠ることなく、たちまちにしてその免許を得ました。性格は朴直にして度量があり、人に接するに謙譲の美德をもつて親しみよく指導にあたり、その門人は200人を超えるほどでした。明治33年(1900)4月に弘道館で行われた茨城県武徳会支部総会において、総裁小松宮彰仁親王の上覧の際にはその妙技を披露し、高く評価されました。明治41年(1908)2月、門人たちが相謀って寿蔵碑「頌徳」を新地共同墓地に建立しましたが、主膳は明治42年3月に歿しました。



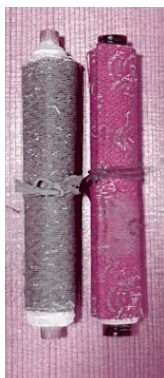
後藤三之助

▼『為我流和神文』後藤和己氏所蔵



芳野村鴻巢の
後藤三之助は、
吉岡流・浅山流・
藤山流を合流し
た為我流を平野
又左衛門の弟子
沢幡忠蔵や沢幡
林助から教えを
受け、明治27年

(1894)に師匠として流派を譲り
受け、自宅に道場を開いて近隣の子
弟の指導に当たりました。後藤家には
「相伝の際は親兄弟といえども他
見他言は無用にて取り組みは人に見
せないように」「師匠の恩を忘れ新流
を取り始めた場合は、7代にわたつ
て罪を掛けられること」などを誓つ
た『為我流和神文』があります。ま
た、後藤家所蔵の門人一覧には芳野
村鴻巢の高島清吉、津田繁之介、宮
本貞吉、昨野保之介、細谷潤一郎、
海野末吉ら、同村飯田の平松満次
郎、横山傳左衛門ら、同村戸崎では
小林豊之助ら、さらに村域外にも南
酒出や木葉下^{あはつけ}などからの入門者など
全員で27人が載っています。



▲門人一覧

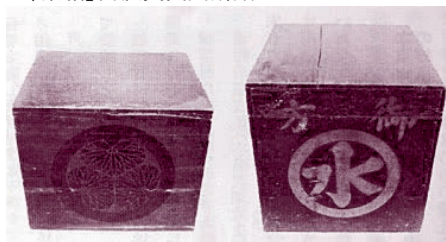
富田兵左衛門知意



富田兵左衛門は、9歳の
ときに鴻巢の奈治原民部の
門に学んで和漢の学に通じ
ました。加えて、杖術・柔
術・弓術・剣術にも達し、後
に帝国尚武会に入つて師範
の証を受け、よく青年子弟
を指導し「棒の兵左衛門」「
柔の兵左衛門」との異名で
語りつがれていました。兵
左衛門の寿蔵碑「兵左衛門
富田先生碑」は、754人
の門人たちが相談^{はか}つて建立
したもののだけに頗る大きく
立派なものでした。飯田中
島の共同墓地にありました
が、現在は解体整理されて
います。

医術面

▼「薬箱」会沢貞美氏所蔵



水戸藩の医師では基礎医学
を開いた原南陽、全身麻酔薬
や人痘接種法の修得に貢献し
た本間玄調が名高く、それら
の影響を受けて医術を修めた
者に北酒出村の長山頼綱・頼
明・行頼の親子三代がいます。
行頼の子行秀は、額田村の原
好誼軒と交流を持ち、藩の表
医師となつています。鴻巢村
の会沢寿量^{あきなる}(字は寿貞)は、水
戸藩の侍医本間道偉に学び、

門弟を養成しています。その医術は優れて、患者は門
前に市をなしたといわれました。その医術の精妙を
もつて郷校野口時雍^{じようかん}館の世話役も務めています。その
子寿貞徳善も藩医本間諡^しに就いて医術を修め、幕末の
藩内抗争では負傷の藩士たちの治療に当たっていま
す。このほか、飯田村の長谷川友哉・有節父子、横堀
村の川又貞淳、堤村の若葉周圭・沢畑武夫、南酒出村
の後藤養節、下江戸村の堀口玄門、額田南郷の寺門玄
雄らがいます。

医術にかかれぬ庶民の治療として本草学^{薬草}が
普及しており、水戸藩医原南陽の門人の一人で小目村
(常陸太田市)出身の本内玄節がいます。この薬草など
による那珂市域にあった家伝の妙薬を紹介して終わ
ります。

下江戸村齋藤家の家伝薬「香砂平胃散」「香砂平胃
丸」、鴻巢村高島家「とげぬき散」、飯田村小田倉家の
「人参五香湯」と鹿島村海野家の「人参五香湯」、額田村
鈴木家の「たまご薬」と原家の「たまご薬」、飯田村小林
家の「神麝丸」「銭氏白術散」などが知られています。

まとめ

このように、江戸時代には
は広く民間にも文武両面に
わたつての教育が普及して
いたことがわかります。こ
れら庶民の営みが、明治維
新以降の近代化を担う大き
な力になっていったことを考
えると、歴史の進展に寄与
する教育の力の大きいこと
を再認識することができま
す。

また、その師弟間には篤
い信頼関係・情愛の念が強
く流れていました。多くの
門人たちは、師のためにと
相談^{はか}り、謝恩の意を込め
て「寿蔵碑」を建てていま
す。実に驚嘆に値すること
です。市内にあるこれらの
教育遺産群に思いを馳せつ
つ、明日の教育、地域づく
りに邁進^{まいしん}したいものです。

問い合わせ

歴史民俗資料館

☎297-0080